



2013年4月発行

【巻頭言】 「三つの古い文書、新たな思い」

中山キリスト教会牧師 榎田信

中山キリスト教会の30周年誌的な『神のなさることとは時にかなって美しい』(1993年)という本の中に、教会の歴史と将来とが記されています。中山教会の始まった経緯は、こうでした。角田淳牧師が、奉仕の場所を求めているF・コール師に「僕の実家付近で伝道して下さい」と伝え、この要請を主からのものと受け止めたコール師によって開拓伝道が開始されました。同じ本の別のページには役員の方の兄弟によって「中山・かもいに次ぐ第三の教会開拓が次の目標か」とも記されています。

あるキリスト教雑誌のおまけについて来た『基督教年鑑 1948年版』。そこに、昭和23年には、十日市場に教会があったことが記録されています。信徒は十名、スカンジナビアン・アライアンスの教会です。牧師は鋤柄熊太郎師。1965年、その鋤柄師による伝道集會に導かれ、高松にいた榎田節夫という学生はキリストを求め始め、しばらく時を経てその息子は十日市場の隣町である中山に牧師として赴任しました。

旧約聖書、列王記第一 18章 30節。「エリヤが民全体に、『私のそばに近寄りなさい』と言ったので、民

はみな彼に近寄った。それから、彼はこわれていた主の祭壇を建て直した。」カルメル山でエリヤはバアルの預言者と対決します。主は彼の祈りに答えて火を降らせ、そしてさらに恵みの大雨をもってお答えになったのでした。リバイバルを思わせませう。それらの前に、エリヤは、アハブ以来壊されていた主の祭壇を建て直します。時代を画する彼の働きは、全く独自に新規になされた働きではなく、主がなされたみ業の流れの中に自分を位置づけ、それを建て直す働きでありました。

神様は、宣教困難で渇いた時代にも、恵みと救いの大雨を降らせて下さるのでしょうか。それは分かりません。神様がお決めになることです。私は、聖徒たちが踏みしめて作って来て下さった道に立ってそれを待ちたいと思います。

この文章を読んで下さるあなたも、この働きを近寄って見て下さりませんか。

「参加をご検討ください。この指とまれ」

主にある JECA 諸教会の牧師先生、教会員の皆さまへ

横浜市緑区にある十日市場での開拓伝道について、ニュースレターをご覧くださいありがとうございます。さて、今一度のお願いですが、まもなく設立される十日市場開拓伝道支援会に参加をご検討くださいませんか。現在 28 の教会が参加を表明してくださっています。

ご存知のように、この働きは「この指とまれ」方式の開拓伝道です。善くも悪くも、緩いつながりで協力します。縛りはありません。財務面で不足が出て、平準化した負担をお願いすることはありません。JECAらしく、個々の教会の力に応じた主体的協力を信頼します。あえてこの形なのです。痛みや負担を共有することは、同時に喜びをも共有することになります。今、十日市場めぐみキリスト教会の胎動が聞こえます。この教会が誕生し、すくすくと育っていく様をともし見守りながら、神様の栄光を見せていただきましょう。

昨年のクリスマスから始められている十日市場での礼拝には、毎週 20 名前後の出席者が与えられ、主イエス様を救い主と信じる魂も与えられています。皆さまの教会の上にも、益々主の豊かな恵みがありますように。

(十日市場開拓伝道準備委員会委員長・上作延キリスト教会牧師 野村卓一)